

特集

資料

Research Note

日本ジオパークネットワーク生態学ワーキンググループの活動
ーこれまでのポスター発表を中心に

The Activities of the Ecology Working Group of Japanese Geoparks Network, focusing on the poster presentations until present

藤井 利衣子^{1*}
FUJII Riyeko^{1*}1: 日本ジオパークネットワーク生態学ワーキンググループ
1: Ecology Working Group of Japanese Geoparks Network

2024年1月12日投稿, 2024年5月14日受理

要 旨

日本ジオパークネットワークのワーキンググループのひとつ、生態学ワーキンググループの活動を紹介する。2017年3月の設立以来、メンバー間での情報交換や議論、整理した情報や活動状況の発信に努めてきた。その中で大きな活動として挙げられるのは、2019年と2020年の2回のポスター発表である。ポスターでは、日本ジオパークの現地審査報告書等に出現する「生態資源」に関する単語を抽出し、評価別にポジティブ・ネガティブ・その他の3つに分類して、その内容と傾向を報告した。得られた主な結果は以下のとおりである。(1) ポジティブとネガティブとで、抽出された単語に目立った違いは見られなかった。(2) 審査1件あたりの抽出単語数に、目立った増減傾向は見られなかった。(3) 生態資源に関する単語は、初めての審査よりも2回目以降の審査で出現頻度が高かった。(4) ジオパーク認定見送り・取消しの場合の審査報告書等では、認定・再認定・条件付再認定の場合と比較して生態資源に関するポジティブな記述が少なかった。生態学WGでは、ジオパークにおける生態資源の保全と活用を促す一助になるよう、今後も活動を続けていく。

キーワード：ジオパーク, ワーキンググループ, 生態学, 生態資源, 現地審査報告書

Keywords: geopark, working group, ecology, ecological resources, evaluation report

はじめに

日本ジオパークネットワーク（以下、JGN）は、日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートし、ジオパークのネットワークの軸となる組織である。JGNの中に運営会議があり、その下で各種ワーキンググループ（以下、WG）が活動を行っている。WGのひとつ、生態学WGは、生態系の保全と活用を通じて持続可能な発展を目指すジオパークモデルを提起することを目的に、当時下北ジオパークの専門員であった平田和彦氏（現千葉県立中央博物館）をリーダーとして2017年3月に設立された。以来、趣旨に賛同する人が加入し（2024年1月現在18人）、メールやミーティング等で情報交換、議論を行い、ジオパーク各地で「生態資源」に対する意識が高まる

よう、整理した情報や活動状況の発表に努めている⁽¹⁾。

生態学WGではこれまで、主な活動として、2回のポスター発表に取り組んできた。本稿ではその概要を報告する。

ポスター発表の概要

ポスターを発表したのは第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいだ大会（以下、全国大会2019）と日本地球惑星科学連合2020年大会（以下、JpGU2020）で、同じ目的と方法で分析した一連の調査の発表である（図1）。生態資源の保全と活用を促すための基礎資料として、全国の日本ジオパークの現地審査報告書と評価結果一覧から、事前に選んだ生態資源に関する単語を抽出し、そ

の内容と傾向を報告した⁽²⁾。抽出する単語については、「生態」「生物」「動物」「植物」「林」「草」「緑化」「(特定の生物名)」「グリーン」「エコ」「ネイチャー」等を対象とした。「動植物」は動物・植物にそれぞれ1カウントし、「国有林」「林道」などの熟語も対象とした。また、古生物と農畜産物は除外した。そして抽出した単語は、評価別に以下の3つに分類し、分析を行った。

ポジティブ：特長・期待など評価の高い内容

ネガティブ：指摘・課題など評価の低い内容

その他：意見・助言・訪問先など評価には直接関わらない内容



図1 第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会でのポスター発表の様子

Figure 1. Poster presentation at 10th National Conference of Japanese Geoparks Network in Oita 2019

1. 全国大会2019でのポスター発表

発表者：平田和彦・中村真介・加藤雄也・岡田美耶・森口夏季

演題：日本ジオパークの現地審査報告書における「生態資源」に対する評価

2008年度から2017年度までの現地審査報告書(2017年度については一部)から、生態資源に関する328語を抽出した。単語は、ジオストーリー・保全・ツーリズム・産業・研究・教育に関する文脈で出現した。内訳は、ポジティブ268語、ネガティブ40語、その他20語であった。ポジティブとネガティブとで、抽出された単語に目立った違いは見られなかった(図2)。また、日本ジオパーク委員会による審査開始からの経過年数ごとに、審査1件あたりの抽出単語数を数えると、目立った増減傾向は見られなかった。

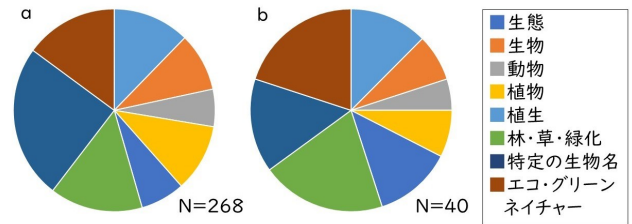


図2 現地審査報告書から抽出した生態資源に関する単語の内訳。a. ポジティブ, b. ネガティブ

Figure 2. The ratio of words regarding ecological resources found in the field evaluation and revalidation reports. a. Positive, b. Negative.

2. JpGU2020でのポスター発表

発表者：平田和彦・加藤雄也・中村真介・藤井利衣子・森口夏季

演題：日本ジオパークの現地審査報告書における「生態資源」の評価と傾向

2017年度の現地審査報告書(全国大会2019でのポスター発表で未分析のもの)と2018年度及び2019年度の評価結果一覧から生態資源に関する単語を抽出し、前回のポスター発表で抽出した単語と合わせて分析した。

生態資源に関する単語の出現頻度を、初めての審査と2回目以降の審査とで比較したところ、2回目以降の審査で出現頻度が高かった。また、生態資源に関する単語の出現頻度を、認定・再認定・条件付再認定と見送り・取消しとで比較したところ、見送り・取消しでは生態資源に関するポジティブな記述が少なかった⁽³⁾(図3)。これらのことから、最初の審査で注目されるのは、生態よりも地質や観光に関する事柄であり、より生態資源に注目することによってジオパークの質をさらに高められるのではないかと考えられた。

この発表を行ったのは、新型コロナウイルス禍の初期で、初めて完全オンラインで開催された日本地球惑星科学連合大会であった。ポスター発表は、コアタイムになかなか閲覧できないといった混乱もあったが、わざわざ感想を送ってくださった方もあった。「現地審査の経験から、現地審査員が現地で『生態系に関して』感じたことがあっても、それを『生態系に関するもの』であることが報告書では示せていない場合も多い」「申請書について同様の解析を行うのが効果的ではないか」などの感想であった。

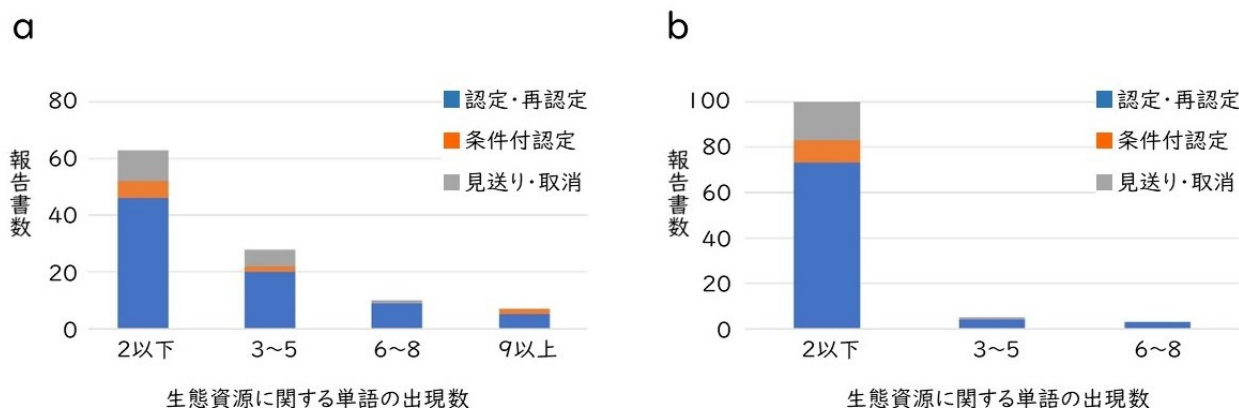


図3 審査結果ごとの生態資源に関する単語の出現数 a. ポジティブ, b. ネガティブ
Figure 3. The number of words regarding ecological resources segregated by evaluation / revalidation results. a. Positive, b. Negative

おわりに

現在のところ、各地のジオパークなどから、今後どのような情報が欲しいといった要望は生態学WGに寄せられていない。生態学分野におけるビジョンが具体的に描けていない地域が多いと思われるが、生態学WGの活動が十分に認知されていないことも要因であろう。一方で、2回のポスター発表や日本ジオパーク全国大会における分科会をきっかけに、新しいメンバーを生態学WGに迎えることができ、徐々にではあるもののジオパークにおける生態学は広がりを見せている。生態学WGでは、ジオパークにおける生態資源の保全と活用を促す一助になるよう、今後も活動を続けていく所存である。

本稿は、2023年10月28日に開催された第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東の分科会①「ジオ・エコ・ヒトーなぜジオパークで生態学？」における発表内容を再構成したものである。同分科会の詳細については、平田ほか (2024a, 2024b) を参照されたい。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、生態学WGのメンバーによる2回のポスター発表を参照した。それぞれの発表を行った著者らに心より感謝申し上げます。

注

(1) ここで「生態資源」とは、ジオパークで活用しうる生物やその生育・生息環境、生態系と

定義する。

- (2) 日本ジオパーク新規認定や、認定後4年毎の再認定について、日本ジオパーク委員会による審査結果の発表後、初年度である2008年度から2017年度までは現地審査報告書（審査された地域毎にA4判約20ページ）、2018年度から2020年度までは評価結果一覧（その年度に審査された全地域が一覧に記載された表）、2021年度以降は審査結果通知書（審査された地域毎にA4判2ページ）が作成され、日本ジオパーク委員会のウェブサイトで公開されている。
- (3) 日本ジオパーク新規認定の申請地域は、日本ジオパーク委員会によって認定の可否が審査され、認定・見送りのいずれかに決定される。認定された地域は、4年毎に再認定の可否が同委員会によって審査され、再認定・条件付き再認定・取消しのいずれかに決定される。

文献

平田和彦・中村真介・藤井利衣子・加藤雄也・福井智香子 (2024a) 日本ジオパーク全国大会における分科会「ジオ・エコ・ヒトーなぜジオパークで生態学？」開催の経緯とねらい。ジオパークと地域資源, 6 (1), 1-3p.

平田和彦・中村真介・藤井利衣子・加藤雄也・福井智香子・伊藤 舜・太田悠造・長船裕紀・立花寛奈・森口夏季 (2024b) 分科会「ジオ・エコ・ヒトーなぜジオパークで生態学？」の成果：「エコ」に関する理解の共有と交流の活発化。ジオパークと地域資源, 6 (1), 63-67p.